

2019年度 ダブリンシティ大学夏季英語研修報告書

2019年8月4日(日)～2019年9月1日(日)

参加人数 25名

2019年度 ダブリンシティ大学夏季英語研修 報告書 目次

1.(氏名は省略してあります)	25. 滞在した部屋について
2.(学生番号は省略してあります)	26. ホームステイ中に起きた問題や困ったこと、その解決方法
3. 性別	27. ホームステイで印象に残ったこと、感想、来年度参加者へのアドバイスなど
4. 学年	28. ダブリンシティ大学への通学手段 (例 バスと徒歩で1時間、往復8ユーロなど)
5. 参加プログラムを知ったきっかけは、何ですか？	29. 通学方法はどのように確認しましたか？
6. 2019年4月8日(月)の夏季英語研修説明会に参加しましたか？	30. ホームステイで印象に残ったこと、感想、来年度参加者へのアドバイスなど
7. プログラムへの参加を希望した理由は何ですか？(複数回答可)	31. 研修全体の費用について
8. 自分のクラス(レベル)の名前	32. 研修中の食費に(ユーロで)大体いくら使いましたか？
9. クラスのレベルの満足度	33. 食事は、どのような場所で何を食べましたか？
10. プレイスメントテスト(クラス分けテスト)について	34. 航空券、プログラム費用、保険、食費以外に(ユーロで)大体いくら使いましたか？
11. プレイスメントテストは、どのように行われ、どのような問題が出題されましたか？	35. 上記は何の費用でしたか？具体的に書いてください。
12. 授業内容についての満足度	36. 日本から持参した電化製品を教えてください
13. 授業はどのように進められましたか？どんな様子でしたか？	37. 持参すればよかったと思ったもの(電化製品、その他のもの)
14. よいと思った授業内容について教えてください	38. 持参したが不要だと思ったもの(電化製品、その他のもの)
15. 改善してほしいと思った授業内容について教えてください	39. レンタルWi-Fiを使用した感想
16. キルケニーツアー(8/10)の感想	40. ホストファミリーとの連絡手段
17. ダブリン城ツアー(8/17)の感想	41. 日本の家族、友人との連絡手段
18. ゴールウェイ1泊2日(8/24・25)の感想	42. 自由時間(放課後、週末など)は、どのように過ごしましたか？
19. 研修期間(4週間)についての感想	43. 危機管理(研修中、危険な目に遭ったこと、地域や時間帯など)
20. クラスが一番多い時は何人いましたか？	44. 他の学生に、本プログラムへの参加をすすめますか？
21. クラスに立教生は(自分を含め)一番多い時は何人いましたか？	45. 上記44.の回答の理由を書いてください。
22. クラスには、立教生の他にどのような国・学校の人が何人参加していましたか？	46. 来年度参加者へのアドバイス
23. ホストファミリーの家族構成	47. 英語力について
24. ホストファミリー宅での時間の過ごし方	48. 研修を通じて発見したこと、学んだこと、自分が成長したと思う点など

1. 氏名

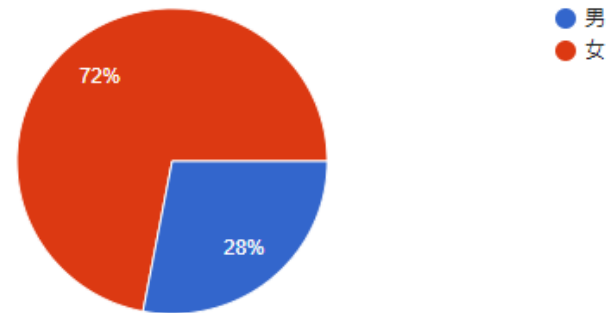
氏名は省略してあります。

2. 学生番号

学生番号は省略してあります。

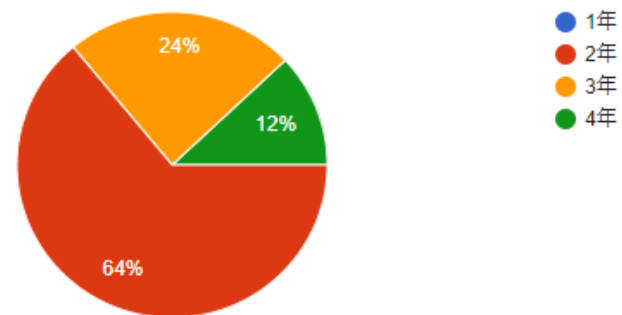
3. 性別

25 件の回答



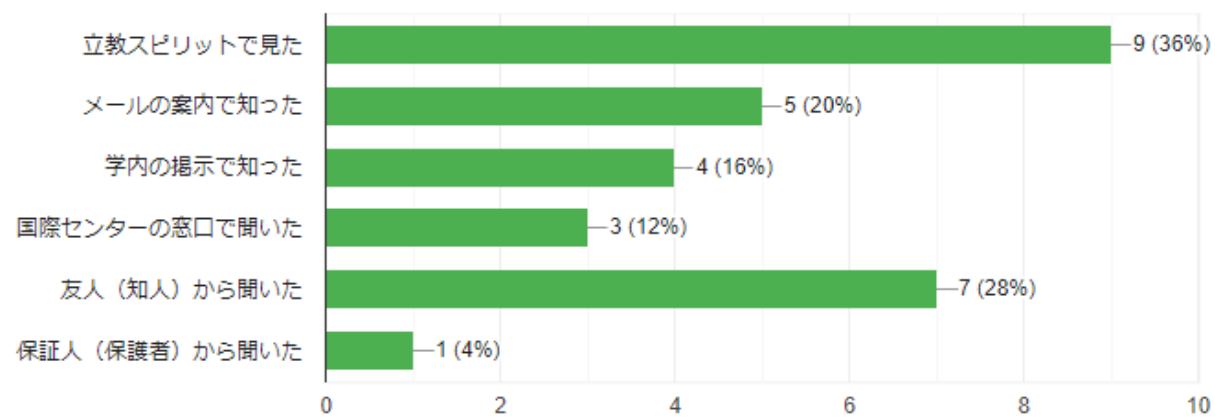
4. 学年

25 件の回答



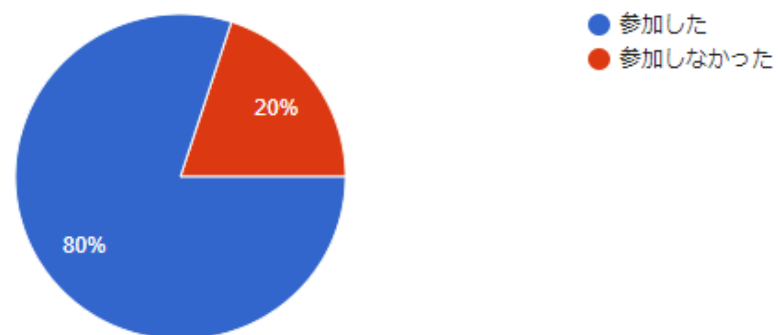
5. 参加プログラムを知ったきっかけは、何ですか？

25件の回答



6. 2019年4月8日（月）の夏季英語研修説明会に参加しましたか？

25件の回答



7. プログラムへの参加を希望した理由は何ですか？（複数回答可）

ホームステイを試みたかった 23人

単位が認められる 15人

時期、期間がよかった 13人

研修先大学のある場所(国)が魅力的または興味があった 11人

研修内容(授業内容)が魅力的または興味があった 7人

研修先大学のある場所(国)が治安がよい 5人

長期留学をする前に短期留学を試みたかった 5人

研修に含まれている課外活動(1日観光や泊まりの旅行)が魅力的 4人

保証人(保護者)にすすめられた 4人

費用が安い(妥当である) 3人

8. 自分のクラス（レベル）の名前は何か？（途中でレベルが変更になった人は、○○から●●に変更、と入力してください）

406から413に変更

Upper intermediate

Upper immediate

IntermediateからPreIntermediateに変更

Upper Intermediate

Pre-Intermediate

Immediate

Intermediate

Upper Intermediate

Upper Intermediate

intermediate

Intermediate

インターミディエイト

Intermediate

intermediate

Intermediate

B2 Upper Intermediate

Intermediate

Intermediate

intermediate

B1

Upper Intermediate

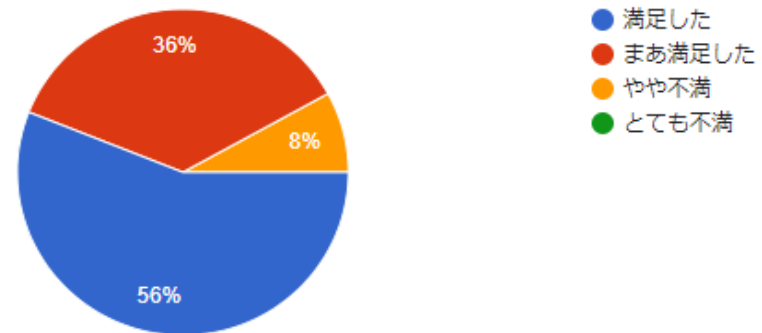
Upper Intermediate

Intermediate

intermediate

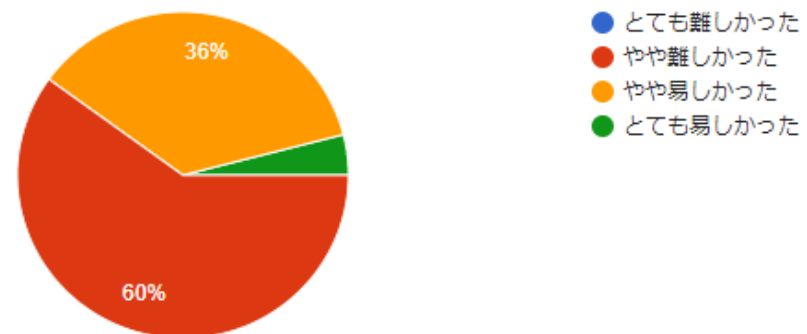
9. クラスのレベルの満足度

25 件の回答



10. プレイメントテスト (クラス分けテスト) について

25 件の回答



11. プレイメントテストは、どのように行われ、どのような問題が出題されましたか？

オンラインで行われ、リスニングはなく、リーディング中心に出題されました。

リーディング

留学一か月前ネットで実施。文法の問題とライティングがセットになって60分間である。文法は簡単な問題からだんだん難しくなる。基礎中の基礎なので難しくはないが忘れがちなポイントを行かれたこともあった

パソコン上で行われ、簡単な文法から難しめのリーディングやライティングが出題された。

インターネット上で行われた。範囲は中学1年生レベルの基本的な文法から高校生向けくらいの読解問題まで。

あまり覚えてはいませんがリーディングはTOEICと似ていたような気がします。私は解く時間が足りませんでした。

中学～高校レベルの文法問題と英作文

文法の選択問題と、自分のことについての簡単な記述問題が出されました。大学受験で習うような文法も多かったです。時間制限もあり、その中での自分の知識を問われるようなものでした。

研修が始まる1か月前位にオンラインでテストがあった。

Grammar and Vocabulary (選択問題)、Reading(選択、穴埋めなど)、Writing(200字程度が3題、家族について、留学の動機など)

事前にインターネット上で回答するものでした。文法問題、長文読解、自由英作文の問題が出ました。

毎週金曜日に授業の三分の二程度の時間を使い、一週間の授業内容の確認を一問一答形式で行った。

コンピュータ上で行われ、文法・長文・英作文が出題された。60分間の中で40分を文法と長文に、20分間を英作文に充てるように指示された。文法と長文の問題数が多いため時間配分に十分注意したほうが良いと思う。

パソコンを使い、英語の文法、語彙、作文など

PCを使って日本で各個人で受けるwebテスト。基本的な文法や単語、英作文など。

パソコンで、語彙や文法、短い小論文の問題が出題された。

パソコンで選択形式の問題とライティングが出ました

オンライン型のテストであり、前半は文法と語彙問題、後半は英作文でした。文法・語彙問題はとても簡単なものから少し難しいものまで段階的に出題されました。英作文は時間があればそこまで難しくないので、時間配分を誤っていたため、最後まで書ききることなく時間切れとなってしまいました。

パソコンを使って受けた。オンライン形式のテスト。文法、語彙、長文読解、最後に作文が3つあった。

オンライン 文法 長文 作文

オンライン

Web

文法・イディオム問題多数と文章問題数題

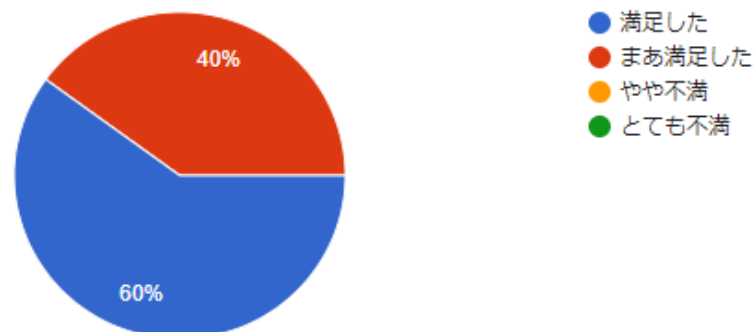
オンラインのテストで、語彙や文法を問う選択問題や英作文がありました。

自宅受験型、文法、長文読解、英作文

週1回、文法、リーディング、リスニング、ライティング

12. 授業内容についての満足度

25 件の回答



13. 授業はどのように進められましたか？どんな様子でしたか？

私は406の授業が大好きでした。クラスの3分の2がスペインから来た英語の先生で、とても高レベルな上、ペアワークの際にはスペイン人が真摯に私たちが分かるまで説明してくれました！

ディスカッション、文法、ポキャブラリー

約4時間の授業。8時50分から10時50分で一区切りし20分の休憩をはさんだのち12時50分まで行う。先生によって授業は同じレベルでも全く異なる。主に教科書によってすすめられ、問題を解いたり英語に関するゲームやペアの人とディスカッションをした。様子は日本人とスペイン人が多くスペイン人がにぎやかだった。

基本は教科書に沿って進められ、クラスの人とディスカッションを多くした。

ディスカッション中心

私は途中でクラスは変わりませんが、先生が変わりました。その先生によってもかなり進め方は違いました。一人の先生は教科書を中心に、アクティビティやゲームが多かったです。英語が好きになれるようにしてくれる先生でした。もう一人の先生は文法が中心であり教科書は使いませんでした。アイルランドについても教えてくれるような知識中心の先生でした。どちらのクラスも楽しかったです。日本人が7割くらいを占めていましたが、多国籍の子も混ぜてみんなで仲良く英語で話しながらコミュニケーションをとっていました。

Speaking を重視した授業。文法問題も、ペアとなり英語で話し合いながら解くことが多かった。

他国、他大学からの留学生と一緒に会話を中心とした授業が毎回行われます。文法などを、会話を通して身に付けられる感じでした。毎週金曜日にまとめのテストが決まっていました。

教科書を使ってReadingやListeningをやってその答えをペアで確認する、質問がたくさん書かれた紙を使ってペアでSpeaking 先生が学生をきちんと見てくれていて質問しやすい環境だった。 スペイン人の先生たちの積極性はすごかった。
学校で渡されるテキストに基づいて行われました。リスニング・英文法・長文読解の問題を解いたり、クラスメイトと話す時間が設けられていたりとは様々でした。外国人が日本人よりも積極的に発言している印象で、それによって話が逸れたりもしましたがどれもためになりました。
先生が一方的に教える日本的な形ではなく、あくまで先生と生徒が協力して授業を作ってく形。 積極的な姿勢が常に求められ緊張感のある中でレッスンを受けることができたと思う。
基本的には会話中心に行われた。その他には簡単なプレゼンテーションやゲームなども行った。
ペアになって会話をしながら、教科書を進めていった
内容は基本的なことだが、話し合うことが多く、話す力が鍛えられた。
語彙や文法を中心に行われ、英語を話す機会が多かった。
賑やかでした
英語を聞き取り、話すことを中心に、教科書を進めていくという形式が基本だったと思います。また毎回授業前に昨日・週末あったことなどをアイスブレイクとして話していました。他の国の方は比較的日本人よりもお喋りな気質であったような気がします。
ディスカッションがメインだった。
練習問題やペアワーク
会話の中で習った文法を使わせる授業
たまに教科書、プリントがメイン
各週金曜日のテストに向けたゲーム、問題演習を実施。ディスカッションも毎日行い、英語を実際に話す時間も設けられた。
授業内容は主に語彙や文法の学習が多く、基本的に他の人とペアワークで問題を解いたりディスカッションをしたりしました。クイズやゲームも頻繁にあり活発な雰囲気でした。
基本的には生徒同士のコミュニケーションを活発にとるように促された
ディスカッションをしたりたまにプレゼンテーションを行ったりした。
14. よいと思った授業内容について教えてください
先生が終了というまでスペイン人と英語で喋り続ける
ディスカッション
勉強になった。
ディスカッション
グループを作ってその週に習った文法についてのクイズ大会をすること。
これは午後にあるやつですが、アイルランドの文化について学ぶカルチャースタディは楽しかったです。神話や音楽について触れました。これも英語のレベルによって分かれていて、もう一つのクラスは難しい内容をやっているようでした。私のクラスは楽しかったです。
また、発音のクラスが午後にあるのですがそれもかなり役に立ったと思います。日本人が陥りやすい間違いを中心に発音の練習をしてくれたのでスピーキングの練習になりました。
わからないことはその場で、先生に質問できたこと。
たくさんの国の人たちと英語を通して会話できる経験ができる会話の授業だったので、自分の英会話のスキルアップや、英語を話す経験値を増やす良い練習になりました。

有名人になりきって、質問に答えるゲーム
クラス全員がくじで1人1つ有名人の名前が書いてあるカードを引いて、その人物について前もって自分で調べその情報をもとにペアになって質問に答え、交替で質問していくというもの。

先生が日常生活で使う英語の言い回しなどを教えてくれたことで生きた英語を学ぶことができました。たくさんディスカッションをさせてくれた先生の授業は本当にためになりました。

先生が発言を促す機会がよくあったこと。
あくまで生徒が主体の授業にさせてくれたことがとても良いと思ったし、新鮮で刺激的だった。

毎回授業開始時に前日にどんなことをしたか、何を食べたか、どこへ行ったかなどをパートナーと話し合う機会を先生が作ってくれたことがコミュニケーションをとるいいきっかけとなった。また、先生が会話を聞きながら逐一間違いを直してくれたので正しい英語を話すことができた。

授業開始時に先生がみんなに昨日なにをしたかなどを聞いて全員が英語を話す機会を均等に与えられていたのでよかったと思う

ペアワークで話し合うこと。

レストランでの単語やフレーズなど、実用的な英語を学べたこと。

生徒同士で意見を交わすような授業が良いと思った

一つのクラスの中に異なる国籍の人が多くいるため、ディスカッションを通して他国の文化や慣習を知ることができるというのほとても良いと思いました。

2人1組で行うペアワークでは、必然的に英語を話さなければならないし、先生の問いかけに対してパートナーと話し合うと新しい発見があったりして面白かった。

ペアワーク

ButやHoweverの使い方

先生とのディスカッション

毎日授業の最初に行う、先生から与えられたテーマについてのディスカッション

ペアワークはわからない所を教え合うことができ、英語での会話の練習にもなったので良かったです。

グループワーク

動画をみてその動画がなにを伝えたいかをディスカッションする授業。

15. 改善してほしいと思った授業内容について教えてください

413の授業で、日本人の割合が多かったために、日本人中心の授業になってしまったこと

家で各自でできる文法を授業中に行う点については不満だった

参加形式ではなかったり先生ですら理解していないのにGoodといって進めたり緩かった点。これはよい授業といった先生とは違う先生で、いい人だったが若かったのもあるのかあいまいな点が多かった

一方的に先生の話聞いていた時があった。

私のクラスはスペイン人ばかりで、ディスカッションのときにスペインやヨーロッパの常識を常識として扱われたこと。

オプションでとることができる会話のクラスは9割が日本人であり身になった感じはしませんでした。1回しかとりませんでした。

途中から、他のクラスの生徒が合流し、クラスのレベルが落ちたこと。

ただ文法だけ習うという時間もあったのですが、それは会話の経験を増やしたかったわたしには少し勿体無かった気がしました。

テストの答え合わせのとき、ただ先生が答えを言うだけで少々わかりにくかった。+αの解説もできればして欲しかった。

クラス内の日本人の比率が多すぎる時がありました。(15人中10人くらいが日本人)そのときのディスカッションの時間はあまりためになったと感じませんでした。また、座学に関して(英文法問題を解く時間など)は日本にいてもできることなので、もっとディスカッションの時間があれば良いのと思ったこともありました。

一週間の間のみ、異なる先生の授業を受けるタイミングがあったがその時は、生徒に全く発言する機会が設けられずに非常に退屈な時間となっていたこと。

特になし

特にないです

特になし。

リスニングの練習をもっとしたかった。

特になし

授業内容に関しては、特にありません。

特にありません。

会話や聞き取りの練習量を増やす

とくになし

特になし

英語力アップにつながらない、ただ単語を述べるだけのゲーム。

時々ですが、授業の進行が速くついていくのが大変に感じたことがありました。

文法の講義

もう少し授業のペースを早めてもいいかなと感じました。

16. キルケニーツアー（8/10）の感想

キルケニー城での説明が英語で、美術館などの解説を英語で聞いたのは初めてだったのでとてもいい経験になりました！

よかった

ガイドさんが熱心に説明してくれたり風景が素敵だったので満足している。ダブリンからもそこまで遠くなく、立教だけのバス移動も便利だった。解散時間が予定よりも一時間早かったのが難点。

良かった。

覚えてない。

単純にすごく楽しかったです。お土産も買えるのでおすすめ。でも自由時間がかなり短いのでもっと回りたかったなあという気持ちがあります。私が行った時は大候も長く過ごしやすかったのでいい街だなと思いましたが、天気が悪いと見づらそうな気がします。

有名な城を訪れ、自由行動時間もあった。ガイドも、こちらの反応を確認しながら、話してくれるので、比較的、話を理解できた。

キルケニー城に行けたことは、自分の中でとても良い思い出になりました。ガイドの方の案内も丁寧で、アイルランドの歴史も共に学べたことが、知識を増やす機会にもなって充実していったと思います。ショッピングモールの有名な傘の景色や、街中での音楽も楽しめて良い旅でした。

ガイドの方が熱心に説明してくれたが、歴史の説明を英語で聞くのは難しかった。お城は立派で内装も美しく感動した。事前にアイルランドの歴史をしっかりと勉強してから行ったらもっとよかっただろうなと感じた。

ガイドの方の英語が聞き取りやすかったため、英語の勉強にも、アイルランドの歴史の勉強にもなりました。もう少しアイルランドの歴史について学んでから渡航すべきだったと反省しました。

キルケニー自体はとても小さな町であったので、すべてを回るとは難しくはなかったが、もう少し自由時間があってもよいのではないかと感じた。しかし街自体も美しく非常に充実した時間を過ごした。

キルケニー城の見学がメインとなっていたため、キルケニーの街並みをゆっくり見て回る時間はあまりなかった。もう少し自由な時間があればいいと感じた。しかしながら、ツアーガイドの方がキルケニーの歴史について詳しく説明してくれる場面もあり、勉強になった。

移動時間が長く、観光の時間が少なかったが、お城など歴史を知ることができてよかった

ガイドさんがゆっくり話してくれたので分かりやすかった。

バスは快適で、到着してから少し自由時間があったのは良かった。キルケニー城内ではガイドの方の十分な説明があり満足。

自由時間があまりなかった

特に印象に残っているのは、アコーディオン(コンサーティーナだったかもしれませんが)を演奏しているストリートミュージシャンを見かけたことです。伝統的なアイルランド音楽が楽しめる町でした。

キルケニー城は大きくて見応えがあった。街並みも可愛らしくて、自由時間もあったので良かった。

綺麗だった

ガイドさんの言葉を理解するのは大変だったが楽しかった

素晴らしかった

自由時間が少なかつたため、十分な観光とお土産購入の時間がなかつたのが心残りだった。歴史的な城や綺麗な街並みには満足した。

キルケニー城を間近で見ることができ、中に入って王族の暮らしを実感できたのでとても貴重な体験ができたと思います。

楽しかった

街並みがとても可愛らしくて楽しかったです。キルケニー城の中をみれたのも良かったです。

17. ダブリン城ツアー (8/17) の感想

あまり時間をかけていなくて中を見る時間がありませんでした。

よかつた

ダブリン城に入らずそこで写真を撮っただけだったので満足度は低い。なぜ入らないのかDCUのガイドも言及せずそのあとダブリンに行きアイルランドの歴史を学んだ

良かつた。

覚えてない。

まずDCUから連絡なしに勝手に延期された上に、当日も長い時間待たされるなどあまりいいイメージはありません。これならツアー形式ではなく任意でよかつたのでは？と思っています。ダブリン城自体は中も楽しめるお城でステンドグラスもあつたりと綺麗で楽しいです。

日程が前後した上に、送ると言われていたメールが来なかつた。ダブリン城も、中に入るのだと思つていたが、時間やチケットの都合で入れなかつた。

ダブリン城を見れたことはとても嬉しかったです。壮大で美しいダブリン城に目を奪われました。しかし、途中の説明や移動が突然始まつたり変つたりと、疑問に思つような時間もあり、そこは改善すべきだと思つました。

ダブリン城はDCUのスタッフが連れていってくれたが、城については中に入らず(入れなかつた?)特になんの説明もなく集合写真を撮つてあつさり終わった。博物館のようところの外でずっと立ちっぱなしで武器の説明を聞くのがつらかつた。そのあと博物館に入って個人で回つて、外で集合し、解散。面白かつたが、全員で行つた意味はなかつたと思つう。

DCUの方が勘違いしていて(?)当日集合後に1週間延期になると伝えられました。1週間経つてからのツアーでは、ただダブリン城へ集団で行つたのみで説明などはほとんどなく、ダブリン城滞在時間も5分程度でした。そのあとミュージアムのようなところも行きましたが、現地のガイドの方の英語は聞き取れず、何が何だかわからないままツアーが終了になりました。

ダブリン城を訪れたのは一瞬で中には入らずその代わり、ダブリンの歴史を学ぶことができるダブリンというミュージアムを訪れた。なのでダブリン城ツアーは全く印象にない。

ダブリン城内に入ることはなく、外観のみのツアーであつたため少し物足りなかつた。DCUの学生スタッフが案内してくれるツアーであつたが、あまり説明がなかつたため正直よくわからなかつた。城内に入るのは個人で行つたほうが良いと思つう。

ダブリンの歴史を知ることができたが、ガイドの人の英語が聞きづらかつた

ダブリン城が工事中で残念だった

ダブリン城では簡単な説明と写真撮影のみだった。全体的にメリハリがなく時間を無駄にした気分だった。

放課後で時間があまりなかつたのかあまりちゃんと見れなかつた

ダブリン城に関してはあまり詳しく見る時間がありませんでした。しかし、その後行つた「ダブリン」施設で、アイルランドという国ができるまでの過程を、様々な展示を通して知ることができたのはとても興味深いと思つました。

お城は外観を見ただけ終わってしまった。その後に行ったヴァイキングの博物館はヴァイキングの生活の様子などがよく分かって面白かった。

城が趣深い

淡々としていて歴史を学べた感はない

もっと観光したかった

ガイドはいたものの、あまりそこにおける歴史について詳しい人ではなさそうだった。

ダブリン城の見学時間がかなり短く、少し物足りない気がしました。

楽しかった

わりと一瞬でおわってしまったし、シティーセンターの中に行こうと思えば個人でいけるのでツアーにする必要はないかなと感じました。

18. ゴールウェイ1泊2日 (8/24・25) の感想

ホテルが少し小さかったですが、ゴールウェイではLGBTのパレードと時期が重なり、とても良い思い出です！

よかった

モハーに行け景色がすごくいけてよかった。しかし、ダブリンから遠く何時間もバスで移動するためつらかった。また、ホテルが12人部屋(男子は4人部屋もあつた)でシャンプーやバスタオルやドライヤーなどの備品が付いてないモーテルなのとバスガイドと一緒に泊まったり衝撃は大きかった。もし今後行くなら上記にあげたものと交換機は必須である。あとモハーに行くまで道が険しいので、酔いやすい人はバスの後ろに座らない、薬を持ってくなどの工夫をした方がいい。実際たくさんの人が車酔いすごく良かった。

モハーが綺麗だった。

ゴールウェイはすごく風は強く、天候は雨で最悪でしたが、街自体はすごくよかったです。バーに行くべき！ホテルは期待しない方がいいでしょう。2日目に行ったモハーの断崖は絶景すぎてまた行きたいと思える場所でした。全体的にダブリンからは遠くバスが苦痛ですがいい旅行でした。

他大学と合同だった。天気が悪かったことが残念だが、見学した場所はどれもよかった。長時間の移動で気分が悪くなる学生が多かった。

風や雨の強い日で、気候の変化に対応するのが大変でした。しかし、海の景色を眺めながら、アイリッシュパブでお酒を飲むというアイルランドらしい経験ができたのがとても嬉しかったです。中でも1番記憶に残っているのは、やはりモハーの断崖です。よく写真などで見ていましたが、実際に見てみると想像以上に感動し、本当にここへ来てよかったと思う瞬間でもありました。アイルランドへ来たら、絶対行くべき場所だとオススメできる場所で、本当に良い思い出ができた旅でした。

個人的にゴールウェイの雰囲気がとても好きだった。天気が悪かったことが残念。パブの活気や港町の解放感が素敵だった。ホテルには基本的に何もないと考えた方がいい。モハーの断崖もこのツアーに含まれていることは知らされていなかったため、この前に行かなくてよかったと思った。帰りのバスの移動が長く酔ってしまう人もいたため、注意した方がいい。

この旅行に参加したことで、立教大学のメンバーとの仲が深まったと感じました。(それまではどこかよそよそしい感じで、そこが私にとって少し疲れる点でした。)土曜日の夕食がとても豪華でおいしかったです。それからホテルが印象的でした。8人部屋でアメニティーやタオル、ルームウェアなどもなく、用意してきていなかった友人にタオルを貸して使いまわしました。朝食もシリアルを立ち食いするという、なかなか出来ない経験ができたと思います。

日曜日にモハーの断崖へ行きましたが、その道中のバスでとても車酔いしました。バスの中の空気が悪い上に道がガタガタでとても揺れ、友人たちと苦しんでいましたが、今となっては良い思い出です。

訪れた街の中でダントツに素晴らしい街だった。特に夜のテンプルバーの雰囲気はとても良いものがあった。

1泊2日であったため、自由時間も多くゴールウェイ自体もそんなに大きな町ではないのでじっくり見て回れた。このツアーの中にモハーの断崖も含まれているので、個別でツアーを組む必要はない。しかしながら、モハーに行く最中に山道を数時間登るため、乗り物に弱い人は酔い止めを持って行ったほバス移動がきつかった。でも一泊二日で十分時間があつたので観光もできたし充実していた。

Moherに行けてとても満足した

天気が悪かったものの、2日間という短い期間で多くの場所を訪れることができ満足だった。ガイドの方々も気さくで話しやすかった。

移動が大変だったが楽しかった

日帰りではなく1泊するということで時間に余裕があったのは有難かったです。また楽しみにしていた、夜のハブでビールを飲むということが実践できたことはとてもうれしく思いました。モハの崖も、景色がよく参加してよかったと思っています。

バスで酔っている子がたくさんいて辛そかったです。ゴールウェイの街は夜通し活気があった。自由時間はもう少し欲しかった。二日目に行ったモハーの断崖は風が強く雨も降ったり止んだりだったけれど自然を感じることができたので良かった。

モハーの迫力がすごかった

みんなと過ごせて楽しかった

遠かったが楽しかった

雨にうたれはしたものの、歴史あふれる街並みやモハの断崖絶壁で美しい自然を満喫できた。

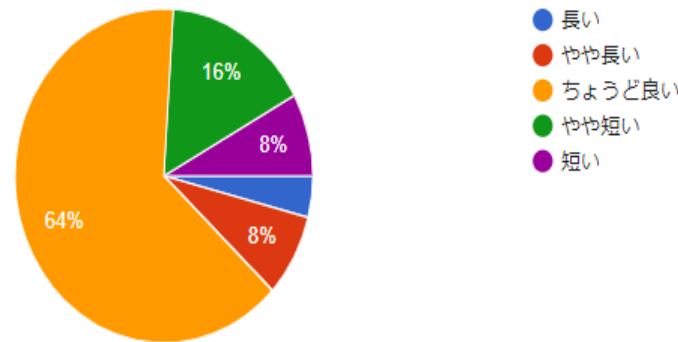
1日目はゴールウェイの海沿いの街並みを観光でき、夕食や宿泊施設も良かったです。2日目のモハーの崖はバスでの長時間の移動が大変でしたが、景色がとても長く行ってよかったと思えました。

楽しかった

モファの断崖の迫力にとっても感動しました。アイルランドに行くなら訪れておくべき場所だと思います。ゴールウェイは町全体にパブが発達しており、夜も音楽に溢れてとてもにぎやかで楽しかったです。

19. 研修期間（4週間）についての感想

25件の回答



20. クラスは一番多い時は何人いましたか？

約12人

12

13

12人

20

14
18
15人
15
15
20
15
15
15人くらい
16
15
約12人ほどでした。
15
13
10
12
約12人
14
15人程度
15
21. クラスに立教生は（自分を含め）一番多い時は何人いましたか？
4人
5
2
1人
1
2
2
2人
2
4
2
2
3
3人
2
2

4人ほどです。
2
2
2
1
自分のみ
2
2
1
22. クラスには、立教生の他にどのような国・学校の人が何人参加していましたか？
スペイン8人、トルコ1人、國學院1人、日大1人、関学3人、学習院1人
スペイン、トルコ、韓国、関西学院大学、日本大学、國學院大学
日本人、スペイン人の先生（英語以外の教科も）イタリア人、サウジアラビア人、モロッコ人
スペイン人、イタリア人、ブラジル人、韓国人、台湾人
日本、メキシコ、サウジアラビア、スペイン、モンゴル、韓国、アゼルバイジャン
韓国、ブラジル、スペイン、台湾
日本人は、当初3人しかおらず、うち1人は長期留学の学生だった。 他の学生の国籍は、スペイン、韓国、ブラジル、台湾 スペイン人が、とても多かった。
スペイン、韓国、イタリア
日本（名古屋外国語大学、東洋大学、日本大学、神戸市外国語大学）、スペイン（先生集団）、モロッコ、UAE、ブラジル
日本からは関西学院(4人)、國學院(1人)、日本大学(1人)、学習院(1人)、獨協(1人)の大学生、またスペイン人英語教師が8人程度、英語教師ではないスペイン人5人、トルコ人1人、韓国人2人、と同じ授業を受けました。
日本人 8人 韓国人1人 ブラジル人 2人 スペイン人 7人 イタリア人 1人
日本人(9人)、スペイン人(7人)、ブラジル人(1人)、台湾人(1人)、韓国人(2人)、トルコ人(1人)、イタリア人(1人)などが参加していた。 日本人は関西学院大、国学院大、日本大、近畿大、名古屋外国語大などの大学が参加していた。
日本人5、6人、スペイン人5.6人、韓国人、ブラジル人
スペイン人と日本人が多く、韓国、中国人が一人ずつくらい
スペイン・韓国・ブラジル・台湾・中国・イタリア・トルコ・名古屋外国語大学・学習院大学・武蔵野大学など
ヨーロッパ圏とアジア圏の人がほとんどだった
入れ替わりたち替わりということではっきりとはわかりませんが、関西学院大学の人や、スペイン人で教師をしている人やトルコ人の女の子などがいました。
イタリア、中国、韓国、スペイン、関西学院大学、名古屋外国語大学、國學院大學、東洋大学、近畿大学、目白大学
日本大 近畿大 名古屋外国語大 スペイン イタリア トルコ ブラジル 韓国

スペイン3、イタリア2、中国3、日本9

サウジ、韓国、ドバイ、スペイン、イタリア

スペインから来た教師多数と日本人留学生、韓国人留学生

日本人が4人、スペイン人が7人、イタリア人が1人

スペイン、イタリア、韓国

イタリア1人、韓国4人、アルゼンチン1人、スペイン2人、明治学院大、東洋大、近畿大の人たちがいました。

23. 滞在したホストファミリーの名前(姓)を教えてください	24. ホストファミリーの家族構成	25. ホストファミリー宅での時間の過ごし方	26. 滞在した部屋について
Kim	ホストマザー、ファザー、娘さん、犬	平日はご飯を出してもらい、その後マザーと喋るという感じでした！また、スペインからのルームメイトが2週間ほどいました。週末は学校のプログラムに参加することが多く、ホストファミリーと出かけるという感じではありませんでした。	部屋には棚が2つあり、自由に使うことができましたが、机がなかったため宿題とかはリビングでやるしかありませんでした。あまり広くはなかったです！
ファーストネームは覚えているが姓は覚えていません	ホストファザー、マザー、息子2人	平日も休日も夕飯を食べた後、一緒にテレビを見た	1人分にしては十分な広さ
Sharon	母父兄(19)働いている。妹(11)犬	平日。帰ってのんびりしてご飯食べてテレビ見て寝る週末。友達と出かける。ホストファミリーと出かけたことはない	広さは十分。一応机らしきものはあったがドレッサーが邪魔で勉強できるスペースは十分ではなかった。
Smith	三人家族、スペイン人が一人ホームステイしていた。	平日、週末ともに、夕飯は家族と別のリビングで食べた。食べ終わった後はシャワーを浴び部屋に戻った。また、朝食はセルフだった。	やや狭いが、ベッドと机とクローゼットはあった。
Quigley	おばあちゃんのみ	平日は放課後友達と遊んで、家に帰ってご飯食べて、ホストマザーと一緒に紅茶を飲みながらその日学校で起こったこと、次の日何をするかについて話した。そのあと部屋に帰って課題してお風呂に入って寝た。週一でエクササイズに連れてってくれた。休日は基本友達とどこかに出かけていた。友達は立教生に限らず、他国出身のクラスメイトの場合もあった。	使いやすかった。広すぎず狭すぎない。机と椅子とベッドとタンスとクローゼットがあった。服の収納には困らなかった。
Emmett	ホストファミリーはマザーのみ(あと犬) 私が滞在しているときにきた留学生はスペイン人と韓国人です(同時期ではない) また、観光客でイタリア人(夫婦)もいました。	平日は17時頃に帰宅し、夕飯を食べテレビを見たり部屋で宿題をしたりしました。あまり喋るマザーではなかったので自分の時間が十分に取れました。 休日は大学の友人と出かけてしまい、家で過ごすことはありませんでした。夕飯の有無を聞かれるのでその都度答え、遅くならない程度の時間に帰宅しました。	ベッドが二つあり、パープルを基調とした部屋でした。私の住んでいた家には来客用の部屋が3つあり、その都度空いている部屋に通されます。かなり落ち着いた部屋で過ごしやすかったのですが、机がないのは少し困りました。
Cassidy	マザー、ファザー、その娘(大人)	平日、週末ともに私は外出してました。ただ、帰宅後にホストファミリーとテレビを見たり、話したりして、毎日コミュニケーションはとっていました。	5畳程度の部屋に、ベッド、クローゼット、机、イスがあった。コンセントは2カ所ので1カ所はたこ足配線になっていた。窓は、2つ、庭と通りに面していた。机は、物を置く用で、勉強には向かなかった。間接照明があったのは便利だった。

Angela	一人暮らし	平日は、ホストファミリーという時間は少なかったです。朝は私の方が早く起きていたので会えませんでした。朝は授業を受けて、昼ご飯は学校か街のカフェで食べていました。放課後は街へ友人達と出かけたり、午後の準備を受けて夕方頃まで過ごしました。夕飯の時間はいつも一緒にご飯を食べて、今日のことについてなどたくさんお話をし、その後は部屋で宿題をしたりしていました。 休日は、朝ゆっくり起きて、日中はずっと学校のプログラムの旅行に行ったり、友人達と少し遠くに出かけてみたり、ショッピングをしたりしていました。いつも夕方頃には帰ってきて、マザーと夕飯をとっていました。	一人部屋としてとても調度良いサイズの部屋でした。ベッド、クローゼット、勉強机、コンセントなどが完備されていて、とても過ごしやすかったです。家全体にwi-fiも通っていて、ネットワークも良かったです。私のホストファミリーは、バスタオルも貸してくれて、部屋に置いておいてくれたのでとても助かりました。洗濯物用のカゴもありました。
Walsh	ホストマザー、ホストファザー、息子、イタリア人3人（19歳）（4日間）、別のイタリア人3人（18歳）（1週間）	平日は夕ご飯の1時間前に帰って、宿題をやって夕ご飯、部屋に戻ってお風呂。 家族団らんという感じではなかった。 週末は友達と外出することが多く、夕ご飯の時間には帰るようにしていた。週末と平日で特に変わりなかった。	二段ベッド、小さい机、棚 6畳くらいの部屋
Conroy	ホストマザー、娘さん4人、お孫さん4人	平日：ホストマザーは夕食を15時頃に食べるそうで、帰宅後はいつも一人でレンジで温めたご飯を食べていました。ホストマザーは私の食事の時間は寝ているか仕事に行っているか別の部屋でTVを見ているかでした。 週末：旅行やシティーセンターへ出かけてしまっていたため、休日と一緒に過ごしたことはありませんでした。毎週末ホストマザーの友人が来てお酒を飲んでいるようで、一度だけ参加させてもらいましたがそれ以外は部屋で勉強したりしていました。	3畳くらい（?）。ベッドと棚が2つありました。
Hynes	父母 息子二人 娘二人 ハウスメイトイタリア人1人 スペイン人1人	平日 一緒にテレビを見たり、週末の予定について話し合ったりした。 週末 週末でかけていることが多かったので就寝のみ	10歳の娘さんの部屋を借りての滞在だった大きさは少し小さいかなと思う程度で十分であった。
Ms.Geraldin Smith	母、娘、犬2匹、猫2匹	平日→晩御飯を食べた後、一緒にテレビを見るか自分の部屋で宿題をして早めにシャワーを入り、22時ごろにはベッドに入っていた。 週末→基本的に遠くへ出かけることが多かったので、一緒にご飯を食べることは少なかった。帰宅後はすぐにシャワーに入り就寝していた。	2段ベッド、洋服ダンス、小さい本棚 コンパクトであったが、狭すぎることはなく過ごしやすかった。
ポーリン	ホストマザー1人、途中でスペイン人留学生1人	家に帰ってからはマザーとお話をしたり、孫と遊んだ。休日は私が出かけたがほぼ夜ご飯は一緒に食べた。	部屋は大きなベッドと大きなクローゼット、机、鏡があった。十分な広さだった。

Kennedy	女性1人	平日 朝ごはんと昼ごはんは自分で作る 暇な時間はテレビや勉強 お風呂、トイレは自分専用のもので自由に使える。 洗濯は自分で好きなときにしている。 休日も平日と同様	一人部屋でベット、机、クローゼットあり。
Dunne	父、母、子ども（男15歳、男12歳、女7歳）	平日は午後18時頃帰宅し、夕食や家族との会話を楽しんだ。 週末はお弁当を作ってもらい、朝から町に出かけることが多かった。	机、二段ベッド、タンスがあり、自由に使うことができた。
Gaffney	ファザーとマザーのほかに留學生が3人いました。	わかりません	狭かったが、きれいで快適だった
McGovern	ホストマザーは一人暮らしで、近所に甥さんの家族が住んでいました。毎年多くのゲストを迎え入れているらしく、私がある間に、スペイン人女性が2人、イタリア人の女性が1人ゲストとして滞在していました。	平日はいつも18~19時には帰宅し、ホストマザーと一緒に食事をとった後、その日あったことなどを話し、21時以降はそれぞれのことをやっていました。週末に関しては、出かける予定があるときは平日と同じで、何もなければホストマザーの用事に同行させてもらったりしていました。	ゲスト一人一人に一部屋を用意してくださっていました。タンス、机、ベッドなど必要なものは一通り揃っており、また親切にもWi-Fi環境も提供してくださりととても快適に過ごすことができました。
Cleary	母、娘、犬2匹	平日は、夜ご飯を一緒に食べた後、テレビを見ながら紅茶を飲んで一緒にくつろいだ。休日は、私が出掛けているため平日と同じ過ごし方だった。	ベッド、クローゼット2つ、勉強机、椅子、鏡、ベッドランプがあった。部屋の広さも丁度良く、快適だった。
Smith	ホストマザー、ファザー、赤ちゃん	平日、週末共に食事やその後の会話	適度な広さ クローゼットなど
Derry	父、娘2人、息子1人、留學生3人	自分の部屋で過ごすか、共有スペースで過ごす	ベッド、棚
keogh	夫婦	会話、食事、	広くて、収納も沢山あった
Kelly	夫婦、猫	平日：学校から帰宅後、夕食を食べてその日あったことについて話す。その後は時間があるときはホストマザーの友達が来訪し、一緒に話した。海の近くへドライブするなどした。	3つの部屋から1つ選ばせてくれた。それぞれ広さは異なり、ベッドの大きさも違った。勉強机はすべての部屋に存在した。
Doran	夫婦2人暮らしで、ホームステイ中の日本人学生が1人いました。	平日は学校から帰った後リビングで夕食を食べ、夫婦と話をしたり自分の部屋で勉強したりしていました。週末は外に出かけることが多く、昼食や夕食も外で食べていました。	6畳くらいの大きさでちょうど良かったです。部屋にはベッド、空のクローゼット、小型のチェストがありました。
morony	父、母、息子2人	平日：ともに夕食、その後リビングでテレビを見る 休日：基本的に1日中外出していた	5畳程度の普通の部屋、机、布団、ドライヤーなどがあり清潔だった
patricia Kenny	ママ、ルームメイト2人	平日時間がある時はネットフリックスで映画をみていました。晩ご飯は時間帯があえばなるべくルームメイトと食べるようにしていました。	とてもきれいで過ごしやすい部屋でした。ベットと机、クローゼットなど全く不自由しませんでした。

29. ダブリンシティ大学への通学手段、時間、費用（例 バスと徒歩で1時間、往復8ユーロ。など）	30. 通学方法はどのように確認しましたか？
バスと徒歩で1時間、往復5ユーロ	ホストファミリーに教えていただきました。
行きは車で送迎20分、帰りはバス60分	グーグルマップ必須
バスで約一時間。往復 5ユーロ	グーグルマップで調べた。ホストファミリーが大学前日に犬の散歩がてら紹介してくれたがメモを取らず忘れて結局自分で調べてしまったのでもしその機会があればメモを取ることを勧める。
バスで10分、往復3.1ユーロ	ホストファミリーに尋ねた。
バスと徒歩、40分、往復5ユーロ	ホストマザーが教えてくれた
自宅からバス停まで徒歩5分(朝は車で送ってくれます) バス乗車時間は10分くらい(交通費は往復で3ユーロくらい) バス降りてからDCUまで徒歩10分くらい。 お金がかかるのが嫌で帰りは歩いて帰ることが多かったのですが、徒歩だと合計で45分くらいです。	グーグルマップで調べました。マザーも教えてくれましたが、最初はあまり理解できず(リスニング力の問題)自力でなんとかしました。
バスと徒歩で45分、往復4.3ユーロ。	ホストファミリーから、グーグルマップのURLが送られた。登校初日は、ホストマザーが犬の散歩がてら、バス停まで一緒に歩いてくれた。
バスと徒歩で往復5~6ユーロくらい。	到着後、ホストファミリーに確認した。
バスで5分(往復3ユーロ)、徒歩25分	グーグルマップで調べたがわからなかったのでホストマザーに聞いた
バスと徒歩で1時間15分、往復4.5ユーロ	グーグルマップで調べたのと、ホストファミリーが教えてくれました。
バスを乗り継いで一時間五分	ホストファザーから直接聞き、確認した。
徒歩で20分	ホストファミリーが車で通りながら教えてくれた。分からなくなったときはグーグルマップを使用。
徒歩20分	ホストマザーに尋ねた
徒歩40分くらい	Google Map
バスで45分、往復約 5ユーロ。	ホストファミリーに尋ねた。
徒歩で20分でした	ファミリーが教えてくれた
徒歩で15分ほどでした。	グーグルマップで調べつつ、ホストファミリーと散歩をしながらルートを確認しました
徒歩だと40分、徒歩とバスで20分、往復4ユーロ	ホストファミリーが教えてくれた。
バスで10分程度	ホストファミリーが教えてくれた
バス1時間 5ユーロ	グーグルマップ、ダブリンバスアプリ
往復6ユーロ	アプリ
車で朝送ってもらっていた。帰りは徒歩(約30分)。	グーグルマップで調べた。
徒歩で20分	始めホストファミリーに教えてもらった後、グーグルマップで確認していました。
徒歩10分	グーグルマップ
徒歩15分	ルームメイトに教えてもらった。

27. ホームステイ中に起きた問題や困ったこと、その解決方法

私が滞在している間にマザーと娘さんがスペインへ旅行に行ってしまったので、その間はファザーが家にいてくれた感じです！

なし

なし

風邪をひいたが、薬局で薬を買ってしのいだ。

なし

なし

部屋に大きな虫がでた。ホストマザーが家にいたときは、対応してもらったが、自分だけのときは、自分で対処した。

した。

一緒にホームステイしていた最初のイタリア人の3人がステイ先を変えたいと言ったことをホストマザーは知らなかったらしく、ホストマザーが怒ってDCUから連絡がきたその日にイタリア人の3人を追い出した。あまりにも突然すぎて驚いたし、不安になった。

長いほうです。

私は事情があり、ゴールウェイ旅行に遅れて参加しました。

ゴールウェイ旅行の日の朝5時頃一度目が覚め、ベッドの上で携帯を少し見ました。そのまま携帯を持って寝てしまっていたようで、6時ごろ、携帯がベッドの隙間に滑り落ちる音で目が覚めました。もともとベッドと壁には隙間があることに気づいてはいたのにそこに携帯を落としてしまったというのは完全なる私の不注意でした。ホストマザーも普段は起きてくるのが遅く、この日もリビングは静かで寝ている様子だったので自分で対処しようと考えました。最初はそこまで焦っておらず、7時40分までに家を出なければなりませんでしたがそれには間に合いそうだと考えていました。ですが、ホームステイ先のベッドは備え付けのもののように、動かせたり下から手を入れられるような構造ではありませんでした。ですので、携帯は上からしか取れそうにない、と判断しました。針金ハンガーやホームステイ先のお風呂にあった鉄の細い棒、大きめの厚紙などをその隙間に入れてみましたが、一向に携帯は引っかかりません。6時20分ごろ、ホストマザー部屋をノックして助けを求めましたが、反応がありませんでした。6時45分にアラームを設定していましたが、このままでは止めることができないと思い、6時半ごろもう一度ホストマザーの部屋をノックしたと思います。そして部屋が開いたと思ったら、マザーの娘さんが出てきました。彼女はとても怒っていて「こんな朝早くからうるさい！」と怒鳴られました。携帯を落としたことを伝えましたが「知らない」「携帯持たずにゴールウェイへ行け」と怒鳴られ、部屋を見に来ることもなくドアを閉められてしまいました。私は毎日家族や友人と連絡をとっていましたし、Googleマップや翻訳などでも携帯をものすごく頼りにしていました。そのため、携帯を持たずして一泊旅行へ行くのは不安のほうが大きいと感じ、もう一度部屋へ戻り携帯を取ろうとしました。携帯を上からとるのはほとんど不可能に思えました。マットレスをどかしてみるとネジで板が止められていたので、その板を取り外せば携帯が取れるのではないかと思いました。自分の持っていた爪切りやコイン、ギネスのお札止め等でネジを外そうとしましたが、12本くらいあるうちの4本が限界でした。6時45分になり設定していたアラームが鳴り始めましたが、携帯に手が届かないので止めることができません。このあともう一度マザーの部屋のドアが開く音がしたと思います。そこで私はまた娘さんのもとへ行きました。彼女はとても怒っていて「赤ちゃんが寝ているから静かにして」「あなたの携帯のことなど私の知ったことではない」と叫ばれました。そのうちには5か月の赤ちゃんがいました。でも私は携帯を拾うためにそんな騒音を出していたわけではないと思います。その時の娘さんの怒鳴り声のほうが何倍もうるさかったと思います。部屋に戻ってしまいそうな娘さんをどうにか呼び止め、「私は外国人だから携帯を持たずにゴールウェイへはいけない」「せめて見に来てほしい」と訴えました。すると娘さんは見に来てくれましたが、とてもとても怒られながら"fuck"や"god"や"Jesus"など叫ばれました。ベッドを見てくれましたが、そのときに邪魔になったものは全て投げ捨てるかの勢いでした。娘さんも携帯が拾えないことはわかってくれたようだったので、ギネスのバジでネジを開ける仕草をしながら「スクリュードライバーのようなものを借りたい」と伝えました。すると「そうやって全部開けるべきだ」「ここはママの家だから私には無理」「ホストマザーが9時半に仕事から帰ってくるからそれまで待つ」と怒りながら部屋へ戻ってしまいました。9時半は旅行のバスが発車するタイミングだったので、それでは旅行に間に合わないかと思いました。DCUに連絡したいから電話を貸してほしいと伝えましたが、知らないの一点張りで貸してくれませんでした。その時が7時半くらいでした。そこから、また一人でネジを開けようとしたり手を伸ばしてみたり格闘していました。どのみち旅行には間に合わないの、とにかく9時頃までに携帯を手に入れて連絡をしようと思いました。ほかにも手段はあったかもしれませんが、焦ってパニックになった私はそのまま9時ごろまで携帯の取り方を模索し続けていました。集合時間の9時が過ぎ、案の定立教の友達からの電話が鳴りやまなくなりしました。私はこのままではいけないと思い、通行人に助けを求めようと緊急連絡先の書かれた紙をもって家の外にでてみました。そこで歩いてきた女性に声を掛けました。本当に本当に運のよかったことに、たまたまその方がその近辺にお住まいだという日本人の方でした。その方に事情を説明して電話をお借りしDCUに電話をかけたところ、バスはもう出発したとのことでした。DCUも「月曜日にオフィスにきてもらうしかない」と言っていたのでひとまずその方にお礼を伝え、家にもどりました。(近所のスーパー、TESCOの近くに住んでいて海岸沿いのカフェで働いているという方でした。その方のお名前やカフェのある地名もお聞きしましたが、焦りすぎていた私は忘れてしまいました。)そして家に入ると、少し前まで激怒していた娘さんが一変、「大丈夫よ！問題ないからね！」という感じで迎え入れてくれました。(その時もう一人、別の娘さんも家に来ていました)私はとても驚きました。娘さんはホストマザーに電話をして、スクリュードライバーを探して貸してくれました。そこでベッドを開けることができ、私は携帯を取ることができました。すぐに友達に連絡し事情を説明しました。その後ものすごい気迫でめっちゃくちゃに怒っていた娘さんは「朝型じゃないの、ごめんね」という感じで何度もsorryとってくれました。

あの時怒鳴られたことは私の人生で一番怖い経験となりました。

この経験で私は、自分の不注意や携帯電話に頼りすぎていることに反省しました。

ホームステイ先の皆さんは優しくかったです、睡眠を妨げられると人が変わるように怒るようでした。後日、ホストマザーに事情を私からも一応説明してみました。ホストマザーによると

なし

1度シャワーを23時ごろに使ってしまったことがあり、その時にもう少し早く入るように注意された。

なし

なし

なし

なし

なし

私の滞在した家には、玄関にセコムのようなアラームが設定しており、ホストファミリーの不在時にその解除方法がわからず、アラームがご近所一体に鳴り響いてしまうということがありました。同様のことが友達にも起こっていたようなので、あらかじめアラームの有無と解除方法をファミリーに確認しておくことが必要だと思います。

虫がよくでたため、ホストマザーに言って捕まえてもらった。

なし

なし

なし
なし
なし
なし

お風呂の使い方や時間、食事の時間などは家ごとにルールがある場合もあり、すべてを理解するには少し時間がかかりました。わからないことがあればその都度ホストファミリーにききかえすことをした方がいいと思います。

28. ホームステイで印象に残ったこと、感想、来年度参加者へのアドバイスなど

ホームステイは家族の一員として受け入れてくれるので、お客さんではありませんでした。洗濯するのにお金を取られる家もあるらしいです！

室内で靴を脱がないこと、自分は部屋で靴は嫌なので、スリッパが必要だと感じた

英語力も大切だけどコミュニケーション能力も同じくらいに大切。私は疲れや緊張から自分から話すことがほとんどなかったので最後にあんま話せなくてごめんと謝ったくらい後悔している。現地の生活になれないから家ではゆっくりしたい気持ちはわかるが仲を深めたいなら自分から話しかけた方がいい。また毎日そんな話題もないと思うので今日したことを話すのがいいと思う。日本にいるときも英語が最悪日本語でいいから親とか友人に話すとホームステイで話しやすくなると思う。また食事は簡単で野菜がほぼ出てこないの(特にサラダ)好きな人は野菜が好きときちんとした方がいい。お土産には一緒に遊べるものを持っていくといいコミュニケーションの一つになる。私はTDLのナノブロック買ってホストシスターと一緒に作って楽しかった。

ホームステイ先によって待遇が違う。

ホストマザーとどこかに出かけるというのはあまりなかった。立教生同士で仲良くなっておかないと、昼休みや放課後一緒に過ごす人がいないのできつイと思う。

ホームステイをしてよかったなと思いました。事前に送ったメールに返信はなく、ものすごく仲良くなれた訳でもなかったのですが、素敵なマザーでよかったです。

とてもあたたかく、親切な家庭で、なじみやすかった。また、自由度が高く、入浴(シャワー)や食事時間についての制限はいっさいなかった。ただ、これらのホストファミリーの方針は家庭によってかなり差があると、友人の話を聞いて感じた。

アイルランドは予想以上に寒かったので、厚手の服やヒートテックを持って行くことをお勧めします。しかし、アイルランドには安い洋服屋さんもあるので現地で調達するのもありだと思います。更に、雨が突然振ったり止んだりする不思議な気候なので、レインジャケットを1つ持っていくことと、しみにくい素材の靴を持って行くのが良いと思いました。

また、服や靴などは、スーツケースに入れて持って行って、帰るときに捨てるようなものがあれば、良いと思います。行きの荷物がパンパンだと帰りに重量オーバーになって苦労していた人もいたので、お土産のことなども考えて、帰りに向けて荷物を減らせる工夫が必要だと思います。また、アイルランドは洗濯の頻度が少ないので、どのくらいの頻度で選べるのか、ホストファミリーに確認を取ることもお勧めしたいです。

ホストファミリーと一緒に食事をする機会がなく、会話は必要最低限しかできなかった。ホストファミリーはビジネスライクだった印象。留学生は留学生同士と一緒に食事だった。食事の時間に最初のイタリア人3人は英語で話してくれたので、とても楽しかった。次にきたイタリア人3人はたまに英語で話してくれたが、3人でイタリア語で会話をしていることも多く、コミュニケーションを取るのが難しかった。最初に一緒にホームステイしていたイタリア人3人の女の子たちとは仲良くなれて、追い出されてしまった後も連絡を取って会ったりした。この3人に出会えたことが今回の留学で一番の財産かもしれない。

ステイ先によって生活習慣も食事も違って、友達のホストファミリーと比べてしまうこともあると思うが、自分があつたステイ先でどうにかやっていくことが大事だと感じた。本当につらい環境であれば、迷わずステイ先を変えるべきだが、1ヵ月であれば良い経験になると考えて適応能力を高めるのも良いと思う。

・ホストファミリーの生活パターンを聞くとよいです。(私のファミリーはとても不規則な感じでした。また寝るのがとても早く起きてくるのもとても遅く、常に静かに行動していました。)

・友達の連絡先もメモしておくべき。(携帯がなくなることもあると思うので、JTBやDCUなどだけではなく友達の連絡先も紙に残しておくべきだと思いました。)

あくまでもホームステイさせていただいている立場なので、向こうの国の文化を尊重することがとても大事。

ホストファミリーが美味しいフィッシュアンドチップスを食べに連れて行ってくれたことがとても印象に残っている。
シャワーの水圧には期待しないほうがいい。

私の家のホストマザーはとても優しく、何も困ったことがなかった。他のホームステイの家は全く条件が違ったりなど、入る家によって生活がまるっきり変わらと思う。

食材、キッチン、お風呂、洗濯機を自由に使えたところがよかったが、ホームステイ先の人ほとんど家にいなかったので会話はあまりできなかった。

ホストファミリーに常に感謝の気持ちを伝えることが大事。こんなに感謝してくれる人は初めてと言われたのが印象的だった。

多少のルールはあるが基本的にはとても優しいので心配する必要はないと思います

した。どうにも比較的日本人は分からないのに愛想笑いでごまかし聞き返さないという傾向が強いらしく、例によって自分もそうでした。できるだけわかるようになるまで恥ずかしがらずに何度も聞き返すことによってだんだん相手の言っていることが理解できるようになったので、来年参加する方々には、ぜひとも何度も相手の発言を聞き返すことをお勧めします。

あと、大学にある自販機やコーヒーマシンは壊れていることが多いので使うときは注意するといいたと思います。

また余談ですが、DCUには1時間1ユーロでカワイのアップライトピアノが借りられる施設がありました。留学中も楽器の練習をしたい方にはお勧めです。

お土産を持っていったら、初めて買ったらしくて大喜びしてくれた。日本のクミは好評だった。食事は家庭によって違った。その日あった事を話すと楽しそうに聞いてくれた。ホストファミリーとの会話は大事だと思う。アイルランドの人の訛りや口癖に気づけるようになったのは楽しかった。

積極的に話しかけることを意識すべき

洗濯の頻度が家庭それぞれで違うのであらかじめ聞いた方がいい

意外と寒い

拙い英語しか話せなくとも、頑張って伝えようとする姿勢に相手が気付いてくれれば、自ずと打ち解けていくことができることを知った。

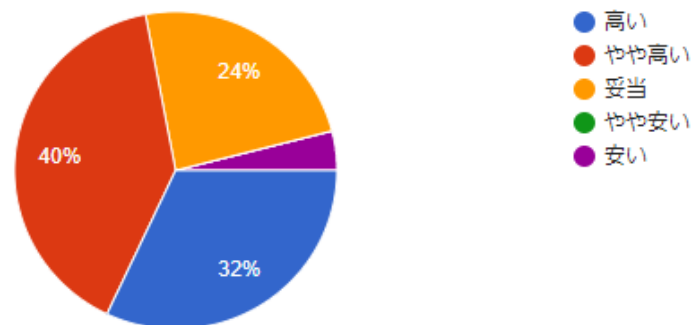
犬を5匹も飼っていて、一緒に庭で遊べたのが楽しかったです。料理も美味しく夫婦もとても優しく接してくれたので行って良かったと思いました。夏でもかなり肌寒い日が多かったので、長袖や上着を持っていった方がいいと思います。

積極的にホストファミリーと話すことが1番のコミュニケーションの練習になる

ルームメイトと一緒に学校にいたり、ご飯をたべたりするのがとても楽しかったです。お家の造り自体も日本とは違うところがあるので新鮮で楽しかったです。ホストファミリーとも積極的に話したほうが楽しく過ごせるとおもいます。

3. 研修全体の費用について

25 件の回答



32. 研修中の食費に(ユーロで)大体いくら使いましたか？	33. 食事は、どのような場所で何を食べましたか？	34. 航空券、プログラム費用、保険、食費以外に(ユーロで)大体いくら使いましたか？	35. 上記は何の費用でしたか？具体的に書いてください。
200	朝食と夕食は基本的に家で、昼食は学校のLondisで買って食べました。 朝はシリアルとパン、お昼はサンドウィッチと果物、夜はハンバーガーやポテト、人参、豆が多かったです！	700	お土産代
わかりません	朝食は家、昼食は大学のレストラン、夕食は家	食費込みで10万強	お土産代、日帰りツアー代
250	朝家。昼。食堂。夜家かたまに外食(友達と)	600	お土産、観光地の入場料、ツアー代
約400ユーロ	朝食: ホームステイ先でパンとシリアル 昼食: 大学の売店やレストランでサンドイッチなど 夕食: ホームステイ先で手作り料理または、シティセンターで食事	約300ユーロ	お土産代、交通費
300	朝食・夕食は基本家。夕食はシティセンターだったこともある。昼食は学校。	400	お土産代、交通費
70	朝食: 自宅でトースト1枚とコーンフレーク 昼食: 学校でマザーが作ってくれたお弁当(サンドイッチとりんご) 夕食: 自宅でマザーが作ってくれたピザやポテト/シティセンターで他国の料理やアイリッシュシチュー	500	お土産代、交通費

180	朝食は、ホストファミリー宅でシリアルやフルーツ、昼食は大学か街のカフェでサンドイッチ、夕食はホストファミリー宅でホストファミリーと同じものを食べた。野菜は少ないが味は美味しかった。量は、あらかじめ少なくしてほしいとホストファミリーに伝えていたのでちょうどよかった。	400~500	交通費、施設利用量、お土産(特に、交通費にお金がかかりました。)
135ユーロくらい	朝食→家 昼食→DCU、街中のカフェ 夕食→家	58000円くらい	交通費、お土産代、ショッピング代
150	朝食:家でシリアルかパン 昼食:ホストマザーが用意してくれた昼食(サンドイッチ)を食堂で食べた。野菜が入っていなかったのの後半はサラダを買っていた。 夕食:家でカレーやパスタ、ピザなど	450	お土産代、衣服(予想以上に寒かった)、観光、交通費、生活用品
230	朝:ホームステイ先でシリアル 昼:大学のLondis(コンビニ)で買ったサンドイッチやピザ、フルーツなど 夜:ホームステイ先でワンプレートのディナー(肉と野菜とじゃがいもの日が多いです。肉はチキン、ポークソテー、ステーキなど。野菜は茹でてあるような野菜で生野菜はほとんどありませんでした。たまに麺類、カレーライスの日もありました。)	700	交通費、お土産代、
500	朝食→家のコーンフレーク 昼食→学校内のコンビニで買ったもの 夕食→ホストファミリー宅またはシティセンターで友達と食べる	500	お土産代、観光費
600	朝食 主に家 昼食 学校の食堂 夕食 シティセンターのレストラン	300	お土産代
150ユーロくらい	三食ホストマザーが用意してくれたので、友達と夜外食をするときだけレストランへ行った	500ユーロくらい	お土産、交通費
300	朝食 家で自分で作ったもの 昼食 自分で作ったものか大学内のスーパーやカフェなど 夕食 家でホストマザーが作ったもの	500	お土産、洋服、交通費
230	朝食:ホストファミリー宅 昼食:平日は学校または市内、休日は市内または移動中のバス 夕食:ホストファミリー宅または市内	600	お土産代、交通費、入場料、ツアー代、消耗品

500	朝食と夕食は基本的には家で食べました。昼食は学校の売店やシティーセンターのレストランなどで食べたりしたので、特に決まった場所で食べたわけではないです。	500	お土産や買い物、ツアーの参加費など
150ユーロ程度（あまり頻繁に遊びに行かないうえ、ほとんどの食事をホストファミリーが用意してくれたため。）	朝食は家でシリアル、昼食は大学内でホストマザーが用意してくれたサンドイッチか、大学内のコンビニで買ったものを食べていました。気が向いたら学食なども利用していました。夕食は基本的には家でホストマザーの用意してくれる料理(ベイクドポテトやフィッシュアンドチップス、パスタやシェパーズパイなど)を食べていました。	400ユーロ弱。	お土産代、洋服代（思ったより寒かったため厚手のものを買った）、施設への入館料、バス代
300	朝食：家 シリアルと果物 昼食：大学のレストラン ハンバーガーやフライドポテト、 大学のコンビニ パンやカップケーキ、ドーナツ シティーセンターのカフェ 夕食：家 チキン、ポーク、じゃがバター、豆、カレー、パスタ、ピザ	1000	交通費、お土産、洋服、観光施設への入場料、日帰りのツアー
400ユーロ程度	朝食：家 昼食：大学、シティーセンター 夜：家、シティーセンター	430ユーロ程度	お土産 ショッピング（服やバック）
100ユーロ	朝食はコーンフレーク、昼食はホストファミリーが作ってくれたランチ、夜は外食かホストファミリー宅の料理	800	お土産
16000	朝は家、昼は買う、夜は外食と家が半々の割合	50000	お土産、服、化粧品、ツアー
250	朝：自宅でシリアル 昼：大学内コンビニでバケットなど 夜：ホストマザーの手料理	500	お土産、交通費など
200ユーロ	朝食と夕食は家で食べ、昼食は平日は学校のレストランで、週末は外食していました。	250ユーロ	お土産代、観光地の入場料、演劇のチケット代
わからない	朝：家 昼：大学内の売店やレストラン 夜：家	100ユーロ程度	お土産、食事など
150	朝と夜は予定がないときは家で食べて、昼食は学校にあるコンビニでパンを買ったり、たまにレストランでパスタを食べたりしました。週末はでかけた先で外食をすることが多かったです。	540	お土産代と交通費、入場料など

36. 日本から持参した電化製品を教えてください	37. 持参すればよかったと思ったもの(電化製品、その他のもの)	38. 持参したが不要だと思ったもの(電化製品、その他のもの)
スマホ、ヘアアイロン、変換アダプター、充電器	なし	サンダル
携帯電話、変換アダプター	変圧器	パソコン
スマホ、電子辞書、充電バッテリー、ヘアアイロン	旅行に行った際に必要になるからドライヤー。	なし
スマートフォン、ノート型パソコン、変換アダプター、電気シェーバー	爪切り	なし
スマートフォン、アイボットタッチ、ドライヤー、ヘアアイロン、変圧器、電子辞書	なし	電子辞書
スマートフォン、ノート型パソコン、変換アダプター	なし	なし(みんなはパソコンと答えていましたが私はゼミ系の課題等あったので持って行ってよかったと思います。)
スマートフォン、電子辞書、ノート型パソコン、ドライヤー、ヘアアイロン、変換ア	なし	電子辞書
iPhone、ノートパソコン、ドライヤー、ヘアアイロン、変換プラグ、変圧器、持ち運びバッテリー	なし	ノートパソコン
スマートフォン、ドライヤー、変換アダプター、電子辞書	箱ティッシュ、替えのバスタオル、延長コード(枕元でスマホを充電できたら便利だった)	大きいシャンプー(現地で買えば良い)
スマートフォン、ヘアアイロン、電子辞書、カメラ	なし	なし
iPhone、iPad、ドライヤー、変換アダプター	なし	iPad
携帯電話、ドライヤー、変圧機、ノートパソコン	無し	無し
スマホ、ドライヤー、変換アダプター、ヘアアイロン	なし	なし
スマートフォン、ドライヤー、ヘアアイロン、変換アダプター	変圧器	なし
ドライヤー、ヘアアイロン、スマートフォン	シャンプー、リンスが足りなかった	洗剤、ハンガー、タオル類
スマートフォン、モバイルバッテリー、ノートパソコン、ドライヤー、変換アダプ	なし	ノートパソコン
スマートフォン、ノート型パソコン、変換ケーブル、ドライヤー、ヘアアイロン、電子辞書	クラスの友達に、留学初日にスマートフォンを落とし1か月間パソコン生活を余儀なくされた人がいたので、スマートフォンのほかにタブレットかノートパソコンがあると万が一の時にそこまで困らずに済むと思います。	なし
スマートフォン、電子辞書、変換アダプター	なし	電子辞書
スマートフォン、ノートパソコン、ドライヤー、変圧器	なし	ノートパソコン
携帯電話、ノート型パソコン、変換アダプタ、変圧器	なし	なし
携帯、iPad、携帯等の充電器、カメラ	特になし	特になし
スマートフォン、変換アダプター、ノートパソコン	爪楊枝	ノートパソコン
スマートフォン、ノート型パソコン、充電器、ドライヤー、変圧器、変換アダプター、ヘアアイロン	なし	なし
スマホ、PC、Kindle、ドライヤー	基本的に困らなかった	軽食(米や味噌汁)
スマートフォン、ドライヤー、変換アダプター、ストレートアイロン、モバイルバッテリー	なし	なし

39. レンタルWi-Fiを使用した感想	40. ホストファミリーとの連絡手段	41. 日本の家族、友人との連絡手段
使いやすかったです！	メール	LINE
たまにつながりが悪い	What's up というアプリ	LINE
変換機が付いてるのは買わなくて便利だった。返却も出口近くのポストに入れるだけで便利だった。満足は大きい	What's up	line
便利	G-mail	LINE
ふつう	メッセージ、電話	LINE
充電の持ちが良く快適でした。	メールと電話	LINE等のSNS
時々、繋がらないことがある。また、充電に気をつけないと、使えなくなることも	Whats app	LINE
街中で、行く場所などをGoogleや地図で調べたい時に、レンタルwi-fiのおかげでネットがどこでも繋がったので、とても便利でした。	Whats App	LINE
調子が悪いと言っている友人もいたが私は大丈夫だった。特に困ったことはなかった。600MBは家にwifiがあれば多すぎると感じたが、なかったらそのくらいないと困ると思う。	WhatsApp	LINE、Instagram
携帯を開くたびにつなが直さなければならなかったのがすこし大変でした。アイルランドではバスや大学のフリーwi-fiがかなり使えたので、レンタルwi-fiを使わない日もありました。	What's app	LINE
とてもよかった。しかし、人によってはWi-Fiの調子が悪くなる人もいます	what's app	LINE,Instagram
とてもつながりが早くまたバッテリー持ちもよかったので、とてもよかったです。	Facebook	LINE
良かった	What's up	LINE
問題なく使えた	SMS	LINE
十分な量で快適だった	facebook	LINE
不便はなかった	メール	LINE
街中でも通信に困らないので、あってよかったと思います。ただ、一日600MBの契約でしたが、家のWi-Fi、大学のWi-Fiを利用していると平均して1日200MBいくらかいかないくらいだったので、そこまで大容量でなくとも、とは思いました。	Whats App、Instagram	LINE、Instagram
重くて大きいのでかさばる。自分で予約した方が安い。	WhatsApp	LINE、Instagram
たまに繋がりが悪くなる	Gメール	LINE、Instagram
便利	WHATS UP	line
普通に良かったが、荷物になる、SIMカードが良かった	what's up	Line
電波がつながりにくい、バッテリー要量には満足	WhatsApp	LINE
どこでもWiFiが使えて便利でした。	メール、WhatsApp	LINE
普通に便利でした	gmail	LINE
とても便利で役立ちました	メール、電話	LINE

42. 自由時間(放課後、週末など)は、どのように過ごしましたか？

アウトレット、City Center、ポーリング、Howth、Grey Stoneなどへ行きました

シティセンター

基本立教の人と買い物映画遠出したりした。週末はツアーに参加したり動物園行ったり思いっきり観光だった。

現地のツアーに申し込んで遠出した。

シティセンターに行ったり、ちょっと遠くまで行って買い物したりした。

シティセンターに行ったり、みんなのオススメの場所に行ったりしました。Bray HeadやHowthは景色が綺麗でおすすめです。

だいたい、出かけていた。ダブリン市内の有名な博物館に行き、遠出もした。ホース、グレンダーロホ、マラハイドなど。

主にダブリンシティセンターの周辺にあるカフェ巡りをしたり、お洋服屋さんや雑貨屋さんでショッピングをしていました。また、電車を使用して少し遠いダンドラムショッピングセンターという大きなショッピングセンターへ出向き、お買い物をしたりもしていました。また、トリニティカレッジや、ギネスビール博物館などの観光地もシティセンターの近くに多くあったので、放課後や休日に少しずつ行ってみたりもしました。

学校の近くにあるショッピングモールや、植物園などは、放課後行きやすかったので行きました。

シティセンターで映画を観たり、カフェに行ったり、無料のアクティビティのconversation Classにも参加した。週末にはSunday Marketが有名なDun Laoghaireに行った。

シティセンターへ行きカフェやレストランで食事、またはお土産などの買い物をする、がほとんどでした、一度、グレイストーンの海へ行きました。

基本的には友達とダブリン市内の観光をした。

授業後は主に観光地を巡った。マラハイド城やハウスなど

友達とシティセンターへ遊びにいたり、ホースへ行ったりした。

友達とシティセンターや観光名所に行くことが多かった。

市内や遠くの観光地に毎日出かけた。週末は北アイルランドの一般ツアーに申し込み参加したこともあった。

友達と観光をした

友達とシティセンターに遊びに行ったり、教会や博物館などに行ったりしていました。特に予定がない日は大学でピアノを弾いたりしていました。

アーに参加した。

シティセンターや観光

パブに行く、ご飯を食べに行く、

ツアーに参加、シティセンター、友達とショッピングモール、サッカー、映画

シティセンターに行き、買い物。観光地に遠出。

放課後はシティセンターで買い物したり観光することが多かったです。週末はアクティビティに参加したりダンレアリーなどに観光に行きました。

シティセンターへ行きお酒を飲むことが多かった

放課後はシティセンターでルームメイトやクラスメイトとご飯をたべたり、ミュージカルをみたりしました。週末はフェニックスパークやホース、プレイヘッドなどダブリンからバスでいける範囲で遠出しました。

43. 危機管理(研修中、危険な目に遭ったこと、避けたほうがよいと思った地域や時間帯など)

夜、バスの二階は治安が悪いとホストマザーが教えてくれました！

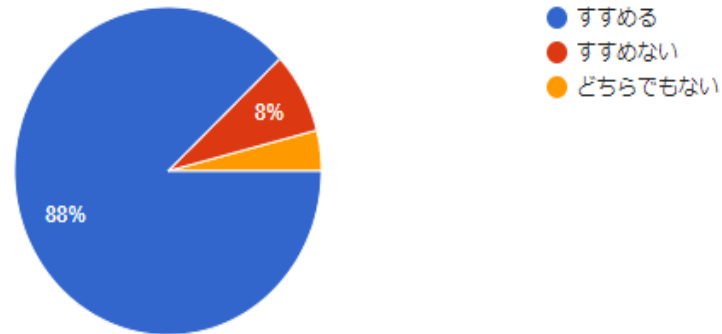
なし

アイルランドは本当に治安はいいと思うが最低限の注意をした方がいい。私はバスに家の鍵とリープカードを忘れたが鍵に電話番号を付けてくれたのでバス会社が連絡しホストファミリーが取りに行ってくれた。これは運がいい方だと思うので忘れ物には気を付けた方がいい。あとDCUでタバコを吸っている女の人に声をかけられたが危なそうな感じだったので無視をした

分からない。
他大の人が財布すられた
私や友人は特に物が盗まれたりとかはありませんでした。夜のバスは酔っ払いが多く少し怖いですが特に絡まれたりなどはありませんでした。シティセンターに一人でお金や連絡先を教える欲しいとせがまれましたがきちんと断ると諦めてくれました。あまり一人で行動はしないほうがいいと思います。
で、スマホをすられた友人がいた。長期滞在しているクラスメイトから、危険な地域を教えてもらった。シティセンターももちろん危険なところがあるが、クラスメイトがスマホをすられたのはDCUの近くだった。
ホストファミリーに、街中を歩くときに携帯で写真を撮ったり、Googleマップで調べたりしていると、すれ違う人に擦られる可能性があるから気をつけてと言われたので、注意していました。リュックを前側に持ったり、貴重品は首にかけたりしていました。
特にシティセンターなど、人が多いところはたまに変な人も多くいて、注意が必要だと思いました。
夕方家の最寄りのバス停で降りたとき、現地の子どもがバスの2階から音がする玉？のようなものをこっちに向かって投げてきた。
シティセンター付近はホームレスの人が結構いました。DCU スタッフからシティセンターではスリに気をつけるよう言われましたが、スリは見ませんでした。
夜暗くなるとシティセンターはすこし空気が変わるような気がしました。
特に危険を感じることはなかったが、夜9時頃になると暗くなり始め、家の周りは明かりも人通りもなくなるので少し怖いなど感じた。
city centerの夜の時間は少し治安が悪くなるということだった。
夜のシティセンターは、酔っ払っている人が多いため少し危ないという話を聞いた。
なし
早朝集合のツアーに参加した際、集合場所で怪しい人に声をかけられた。
現地のティーンネイジャーから人種差別のような扱いをされることがある(韓国人の友達が卵を投げつけられた)
特になし
バス停から家まで街頭がほとんどなかったの、帰りが夜遅くなった時は暗くて怖かった。
友人の韓国人のクラスメイトがバスですられた
なし
危険な目には合わなかったが、夜遅いとファミリーが心配してくれる
バスで酔っ払いに絡まれた。
危険なことは特になかったですが、暗くなる夜10時頃以降はあまり外を出歩かない方がいいと思いました。またシティセンターなど人が多い所では物が盗られないよう常に管理に気をつけていました。
なし
とくになし

16. 他の学生に、本プログラムへの参加をすすめますか？

25 件の回答



45. 上記の回答(「すすめる」「すすめない」「どちらでもない」)の理由を書いてください。

かけがえのない友達と出会える。日本人だけでなく、スペイン人などの外国の人と出会えるから。

ホームステイで4週間と短期の中では長めであるから

その人の目的によると思う。英語だけかつり勉強したいという人にはあまり勧められない。立教の生徒といえる時間も多いのでどうしても日本語を使ったり昼休み放課後も固まりがちになる。人間関係にも気を使い英語以外のことで労力を使う。でも本人次第だと思うので流されない自信がある人には勧められる。私は上記のタイプだったが慣れない地での疲れやさみしさからか、日本人とつるみ外人の友達はできなかった。初めての留学や楽しみたいという人にはぴったりのプログラムだと思う。立教の友達と授業を受けたり旅行できるし、放課後も授業もなく観光に行けるからだ。

良い経験になったから。

国際センターの言ってることとDCUの言ってることが違うから。色々振り回された感じ。

海外経験やホームステイをしたことがない人は一回やってみると概念が変わると思います。私も就職など国内志望が強かったですが、海外に行くと働き方自体も違ってそういった部分でもかなり影響を受けました。

とても有意義な1カ月が過ごせたから。

今回のプログラムで初めての海外を経験した私にとっては、本当に勉強になるプログラムでした。英語を学べるということだけでなく、他の国の留学生と友達になれたり、英語を通じた人との繋がりができるプログラムだと感じました。また、ホームステイという経験を通して、日本にはない生活の仕方、食事などの文化の違いも実際に理解できて、とても良い経験となりました。このプログラムのおかげで、自分の視野や経験値が広がり、日本以外のことにも更に興味が湧くようになりました。それと同時に、日本の良さ悪さも考えることができ、学校では学べないようなことを多く学ぶことができました。特に、アイルランドというめったに行けないような、プログラムとして選ばれる国としては少ない国に行ってみたことで、新鮮なことがたくさんあったのでそれもまた良かったと感じました。

アイルランド留学のメリットは、ヨーロッパの人達との交流ができるという点だと感じた。ヨーロッパの人は大学生でも、自分の言語+英語+他の言語を話せていて、英語も話せない自分が恥ずかしくなった。日本では得られない刺激を受けた。ヨーロッパに興味がある人にはおすすめ。英語を話せるようになるためには1ヵ月という期間は短いけれど、初めての留学としてはちょうど良い。

4週間日本を離れることで異文化を知ることができる。英語勉強のモチベーションに繋がる。

海外の生活に触れることで将来についても考えるいいきっかけになったため。

大学のプログラムだけでなく、アイルランドの文化や雰囲気はとても素晴らしかったから。

ホームステイという経験はとても良いと思った。また、長すぎず短すぎず、期間がちよつどいいため嫌になることもないと思う。授業や学校のツアーなども充実しているの
で時間が無駄になることはないと感じた。英語がすごく上達するということはないかもしれないが、英語に慣れることができる。

とても充実した1ヶ月になったし、アイルランドの魅力に気づくことができるから

クラスの生徒は多国籍で、英語を話さなければならぬ環境が常にあり成長できた。ダブリンは魅力的な観光地が集まっていてまわりやすい点もおすすめ。

日本とは全く違う文化に触れらるから

リーズナブルな金額で非常に価値のある体験ができる。また夏休み期間という大変参加しやすい時期に実施されるので1~4年生すべての人にお勧め。

日本では経験できないことがたくさん経験できるし、日本以外の国の文化も知ることができるから。

刺激を受け、モチベーションが上がる

一か月間ではあったが外人の友達ができたりといい経験ができた

自分の過ごし方次第だがとても充実しておりまた、たくさん友達ができる

時刻では味わえない体験ができたから。

比較的治安が良く、また夏でも気候が涼しく過ごしやすいため。期間が短めなので、初めて留学に行く人や、長期留学に行く前に一度海外での生活を試してみたい人
にも丁度いいと思います。

海外での生活を体験できるから

海外での生活、他国の友達との交流、異国の見慣れない文化に触れることは自分にとって本当に今までにない大切な経験になりました。

46. 来年度参加者へのアドバイス

沢山写真を撮ることをお勧めします！私は1200枚くらい撮りました！笑

スリッパ必要、グーグルマップ必要

ホームステイは初日からどんどん口数は減っていくので最初は気合を入れてたくさん話すべきだと思う。口数少ないまま行くと急に話したらどう思われるかなと気にし話
しづらかった。私は日本から洗顔料など新品で持ってきたが一か月で全部使い切らず帰りは荷物になるので新品ではなくて半分くらいの量とかでもいいと思う。現地で
買う手段もあるがどんなものかわからない、売ってる場所を探す手間、買う時間を考えると日本から持って行ってもいいと思う。でも個人の好みによる。4週間はあつと
いう間なので何か目標を作って現地に行くといいと思う。私は最初にリメンバーミーという家族に関する映画をホームステイ先で見てそこからずっとホームシックになっ
てしまったので、メンタルが弱い人は気を付けた方がいい。

4週間は長いようで短かったので、初めのうちにどこに行きたいかを、ある程度ピックアップして計画を立てていった方がいいと思う。

日本からのお土産はそんなに深く考えなくていい。お菓子を持って行ったが食べてるところを見たことがない。

不安なことが多少あっても現地の仲間が助けてくれるのでどうにかかります。私は友人がいない状態で研修を迎えましたが、向こうで立教の友人ができ、楽しく過ごすこ
とができました。アイルランドはそんなにメジャーではなく周囲の友人からはいいイメージはなかったものの、私は行ってよかったなと思います。あとは自分の目で確かめ
てください！

衛生環境については、日本と同じと考えない方がいいと感じました。天気が変わりやすかったので、夏でも防水の上着が必須でした。ネットなどの情報に、日本の春か
ら夏にかけての服装でよいとありましたが、実際はさらに着込んでいました。たしかに、現地の人々は、半袖で歩いていますが、日本人の学生は多くが寒いと言ってい
ました。長袖のシャツなどがあるといいかもしれません。

ホストファミリーとはできる限りたくさんお話するべきだと思います。仲良くなれたら、たくさん尽くしてくれるし、楽しい滞在になることは間違いないです。更に、英語を話す機会でもあるので話せるだけ話すことをお勧めします。でも、やはりお家は疲れを癒す場所でもあるので、部屋での自分の時間も大切にしたいです。あくまで向こうでは自分のお家なので、失礼な態度は控える且つ、ホストファミリーの家の決まりなどがあればそれは守りつつ、リラックスするのが一番良いと思います。後は常にホストファミリーに感謝の気持ちを忘れずに伝えることも大切だと思います。

私が滞在中に一番恋しくなったのは日本食なので、日本から少しだけ日本食を持って行くことをお勧めします。それから突然気候の変化や寒さなどで風邪を引いたりする可能性もあるので、慣れている風邪薬なども持つと安心だと思います。

アイルランドは、有名な食事や建物なども沢山あるので、少しずつ放課後や休日に行ってみると、とても充実した楽しい研修になると思います。そしてその先で出会った現地の人との会話を通して、英語を話す機会を増やせたり、文化を学べる良い経験にもなると思います。

授業では、日本人は他国の留学生に比べてすごく控え目な印象がありました。自分で分かったと思ったら、恥ずかしがらずにどんどん発言したり、グループワークでも自分の意見を伝えようとする事で、他国の留学生や先生との関係性を深められたり、英語の上達にも繋がると感じました。

とにかく悔いのないように、やりたいと思ったことはどんどん実践することが大切だと思います。

春季の研修報告書にレターセットを持っていくと良いと書いてあるのを見て、持って行ったのが役に立った。メッセージカードも持っていけばよかったと思った。雨が降ったり止んだりしたので、小さくなって持ち運びやすいウィンドブレーカーは傘をささなくていいので便利。また、ゴールウェイで雨に打たれて風邪を引いた時、葛根湯も役に立った。

必要なアプリは事前にダウンロードしていった方が安心。

・Google Map なかったら生きていけなかった。

・Whats App ホストマザーとの連絡や現地で知り合った人との連絡用。

・Journey Plan 乗り換え案内アプリ。ちょっと出かけるときに交通費やバス停を調べられる。

・Next Bus Dublin 最初におすすめされるであろうDublin Busよりも遥かにわかりやすい。感動モノ。ステイ先のイタリア人留学生が教えてくれた。もっと早く知りたかった。

日本の生活習慣が基本ではないということを知ってからいくべき、

日本食(レトルト食品など)持っていくと良い

分からないことは分からない、嫌なことは嫌だとためらわず伝えること

雨が多く、8月でも寒い日が多いので長袖や羽織るものを多く持って行ったほうが良い。半袖は1枚程度で事足りる。

日本人はやはりキャンパス内でも固まってしまう傾向が多くあるので、そのtrnは自分自身でしっかりとした信念をもって過ごさないと留学の意義がないのではないかと考える。

ホームステイは、家によってかなり状況が違う。授業は午前で終わるので午後時間がたくさんあり、その時間に色々なところに行けるため有効活用するといえると思う。4週間あれば色々なところに行けるので十分な時間であると思う。

思ったよりも寒かったので上着やコートを持っていったほうがよい

シャンプーやリンス、歯磨き粉、ティッシュペーパーなど、消耗品が意外と減ってしまい現地で買ってしまったため、多めに持っていった方がよい。研修中は時間を無駄にせず、たくさん場所を訪れることが大事。ホストファミリーとの会話のネタにもなる。

ゴールウェイに行くバスで乗り物酔いや体調を崩した人がいたので酔い止めや薬は持っていくことをおすすめします。

これより前の項目にいろいろ書いています。

一ヶ月はあっという間なので、行きたい場所や食べたいものは事前に調べておいた方がよい。放課後すぐに家に帰ってしまうのはもったいない。

自分の部屋にこもりがちにならないようにする

事前にホストファミリーに気になることは全部聞いておく

羽織るものは絶対居ると思う。

靴も履き慣れていないと石畳で歩きにくい

ホストファミリーと打ち解けるために、こちらからどんどん話すべき。

ホームステイ中は英語に自信がなくても、遠慮せず勇気を持って話しかける方が力つくし家族とも仲良くなれると思います。夏でも肌寒かったので長袖や上着が必要で、また雨が急に降る時があるのでレインコートなど防水の上着もあると便利だと思います。

英語を勉強してから行くと充実した実習になると思います

学校には日本人もわりといるので、自分から積極的に海外の人とコミュニケーションをとるようにすることが大切だとも思います。

47. 英語力について

406のクラスでは、2週間だけでしたが英語を聞く力がものすごい上がりました！

英語を聞くことには慣れた

正直一か月ではあまり変わらないがリスニングは聞き取りやすくなった。だが本人の努力次第で伸びると思うのでぜひ頑張ってもらいたい

話す力はそれほど向上しなかったが、聞く力は少し向上したと思う。

リスニング力はつく。

もちろん1ヶ月なので最初からすごく向上することは期待していませんでしたが、英語で話すことに抵抗はなくなり、リスニング力とスピーキングは上達したかなと思いました。

Listening力、Speaking力を求められることが多い。積極的に、会話すれば、Speaking力はかなり向上した。

特に、英語を聞いて話す力が身に付いたと思います。今までは自分で話そうとしてもどう言えば良いかわからないことも多かったのですが、現地の人々の言い回しを聞いて、こう言えいいんだと学べて、実践できたりしたことで語彙力の向上に繋がりました。また、会話のために聞く意識も強まるので、聞く力も身につくと思いました。

バスのアナウンスの英語を必死に聞かないと家に帰れない、英語で話さないと食事を注文できない、というように追い込まれた環境だと、英語がわからない、間違っていたら恥ずかしい、という感情よりも、必死さが勝つということがわかった。最初はクラスの人、ホストファミリーも各国のなまりが入っていて聞き取るのが難しかったが、後半には多少推測ができるようになった。話すことも、怖くはなくなったと思う。

他の国の人と勉強してみて、スペイン人が意外と簡単な単語を知らなかったり、逆にクラスで当たり前のように使われている文法用語が全く分からなかったり(余裕があれば知っておいた方がいいと思った、現在完了=Present Perfectとか)国によって苦手な発音が違ったりして、英語に苦労しているのは日本人だけではないということを感じて、とても気が楽になった。英語に対する考え方は確実に変わったと思う。

聴く・話すことに慣れたと感じた頃の帰国となりました。リスニングテストのリスニングはとても聞きとりやすいですが、日常で使われる生きた英語は聞き取りにくかったと感じていましたが、少し慣れました。また、言いたいことの単語が出て来やすくなったと思います。

英語力の向上はあまり感じなかったが、コミュニケーション能力の向上は感じた。

リスニングに関して言えば、少しは向上したと考えている。

しかしながら、多くの人との日常会話をした中で圧倒的に語彙力がないことを痛感させられた。

積極的に英語を使うことで慣れることができるし、クラスの人や先生、ホストファミリーに自分から話しかけることは大切だと思う。最初に比べたら英語に慣れることができ、リスニング力がついたと思う。急に話せるようになることはないが、単語が出てくるようになった。

英語がだんだん聞き取れるようになった

英語は理解できるまで聞き返すことを意識していた。アイルランドは特になまりが強いと言われているので、学んできた英語と全く異なり聞き返さないとわからないことが多い。ホストファミリーにアイルランドのスラングなどを教えてもらい、語彙を増やすこともできた。

英語力に関してはそこまで急に上がった感じはないが、自身はついた

リスニング力が一番向上したと思います。また授業で改めて文法の勉強をするので、自分の忘れていた文法の知識が再び得られてとても良いと思いました。

スピーキング力が上がったとは思わないが、リスニング力はダブリンに行く前と今では大きく変化したと思う。

相手が何を言っているのか分かってきた

英語の表現の仕方が自分でわかってくる

特に高い英語能力がなくても参加は十分にできると思う

英語で話す自信はついた。

初めはホストファミリーや学校の先生の話すスピードについていけず、とっさに英語が出てこないことも多かったですが、過ごしているうちにちよつとずつ聞き取れる単語が増え、会話にも慣れることができたように感じました。

聴く力はついたと思う。逆に日本ではリーディングを重視していたからか、話すのはやはり難しかった

前よりも英語をききとれるようになり、なによりも自分から楽しんで話せるようになりました。英語に対するモチベーションもあがったと思います。

48. 研修を通じて発見したこと、学んだこと、自分が成長したと思う点など

成長したことばかりです。スペインの留学生のおかげで、視野が広がり、もっと言語を勉強しようと思うようになり、早速英会話に通います。そして、スペイン語も話せるようになって次はスペインに留学したいと考えるようにもなりました。

自分で行動することが大切、リスニング力が上がったように思う

現地の英語はTOEICのリスニングみたいにゆっくり話してくれず、何言ってるかわからないことがり日本でも英語を勉強してたのにわからないとショックを受けた。行く前に絶対勉強はしといたほうがいい。リスニングリーディングスピーキングライティング全部。現地で英語を学ぶのでなく実践する場だと思うと有意義な留学になると思う。これをきっかけに英語のやる気が出たので言った意味はあったと思う。ぜひ楽しんで頑張ってきてほしい。

留学先ではあまり受け身にならず自分から動かないと、コミュニケーションは取れないし、行きたいところにも行けなくなるということ学んだ。また、積極的にすることで自分に少し自信がついた。

発言するのが怖くなくなった。

この研修を通して、日本をより海外に発信していきたいなと思いました。私は日本が好きなので、少し過大評価していた部分がありましたが、アイルランドの人々にとってはアジアの小さな国でしかなく、来年はオリンピックも控えているというのにあまり日本について知っている人はいませんでした。もっと日本のことを知ってもらいたいという気持ちが強くなったのは海外に来てより実感しました。

英語で会話することに、抵抗感がなくなった。また、日々の生活でも、自分でできることが増え、可能性が広がった。

今まで自分が考えていたことは、とても視野が狭いことだったということをととても感じさせられました。言語や生活習慣について、これまで自分が考えていたことは一部だったのだなと思わせる研修でした。他の国に出てみることで、海外の良さ悪さと同時に、日本の良さ悪さについても感じる事ができて、自分の考えを深めることができるようになったことが一番良い成長だと思いました。また、英語を話すことへの抵抗や壁が前より断然減ったことも大きな成長です。常に話さなければならない環境にいたことで、自然と話すことに慣れていったように思います。

英語についても文化についても自分の成長に繋がることがあり、とても良かったです。

1ヵ月海外に行くこと自体初めてだったし、想像がつかなかったがどうにか生活はできるんだなと思った。まったく違う環境で生活をして初めて日本の生活のありがたみに気がついた。(例えば日本の食事のおいしさや、トイレが綺麗に流れることの素晴らしさなど)当たり前だが、国が違ってても気が合う、合わないはあるのだなと思った。海外で友だちができたのは初めての経験でとても面白かった。自分自身は変わってはいないが、新たなものが付け足されたという感覚はある。一番はNo thank you.を言えるようになったことかもしれない。海外だと自分のために断らないと辛いことがあって(食べ物など)言えるようになったことが成長だと思った。

自分の意見をしっかり主張しなければ、という意識を持つことができるようになった。時間管理も今までより徹底できるようになった。

自分の英語力の無さを痛感し、もっと勉強しなければいけないと感じる良い経験になった。

この四週間で、自分英語力に関して大きな変化があったということは、言えないのかもしれないが意識に対してはものすごく大きな変化があったと思う。

自分自身初めて長期的に異国の地で暮らすことで普段日本にいたら考えていないことも多く考えさせられたし、自分の今後の人生の生き方を深く考えさせられた留学だった。

四か月という短い時間だったが本当に留学してよかったと思っている。支援してくれた両親、祖父母、立教台の国際センターの方々感謝してもきれない。この経験を無駄にしないように今後を生きてきたい。

アイルランドの人だけでなく、クラスの様々な国から来ている人から学ぶことがたくさんあった。日本人はあまり積極的ではないことを改めて実感した。自分からコミュニケーションをとれるようになったことは成長したことのひとつであると思う。

自分の思ったことを英語で伝えるにはどう言えばいいかを考えるようになった

ホームステイ先の生活は日本と大きく異なり、戸惑うことも多かった。しかし、自分がどうしたいのか恥ずかしがらずに伝えることで快適に過ごすことができた。大学の授業では積極的に発言したり、他の国の生徒に声をかけ、なるべく英語を話すことを心がけた。

ヨーロッパの考え方を学べた

まず、日本人以外と会話をする中で声が大きくなりました。(他国の方はわりと相手にお構いなしでしゃべる方が多かったので、話したいときは声を張り上げる必要がありました。)そして、英語に自信がなくともジェスチャーと知っている単語だけで「かなりの」情報が伝わるということもわかりました。そういうこともあり、話すことに関してかなり積極的になりましたね。

今まで知らなかったアイルランドの歴史や文化を知ることができた。一ヶ月アイルランドで生活してみて、自分の考え方が変わった気がするし、視野も広がった。

様々な国によって構成されているクラスメイトはそれぞれ違った価値観やバックグラウンドを持っていて面白い、授業を通して外国人は積極的

一人でも外国の人とお出かけして英語で話すことができる

日本人がいかに消極的かということに気付かされた。もっと自分から喋っていこうと思った

新たな環境に適応する努力の大切さ。

発音や文法に自信がなくても話しかけると意外とちゃんと通じることが多かったので、正しい英語を話すことを意識しすぎるよりは、間違っていてもいいので積極的に会話することが大事だということがわかりました。最初はわからないことがあった時など人に聞くのも遠慮がちでしたが、過ごしているうちに疑問はすぐ周りの人に聞けるようになり、ホストファミリーとの会話も楽しめるようになっていったのでその点では成長できたように感じました。

積極的にコミュニケーションをとる力や周りを気にせず行動する力がついたと思います

他国の文化を体験すること、今まで自分の知らなかったことを知ること、英語で自分とは違う文化で育った人たち交流することはとても楽しいし、自分の世界を広げてくれると感じました。